

令和3年度第2回富士見市いじめのない学校づくり委員会
会議録要旨

【日時】 令和3年10月18日（月） 14：00～16：30

【開催場所】 富士見市教育委員会 会議室

【出欠状況】

小林	塚田	長堀	忽滑谷	森田
○	○	○	○	○

【事務局】

小中学校連携教育推進担当課長、教育相談室長、指導主事

【次第】

- 1 開 会
- 2 教育委員会あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 報告事項
 - (1) 令和3年度第1回生徒指導に関する調査結果について
 - (2) 富士見市内小・中学校のいじめの実態について（過去3年間）
- 5 議 題
 - (1) いじめのない学校づくり子ども会議に向けて
 - (2) 「いじめの重大事態」への対処について
- 6 事務連絡
 - ・第3回富士見市いじめのない学校づくり委員会
令和4年2月14日（月） 14：00 富士見市教育委員会会議室
- 7 閉 会（副委員長）

【議事】

(1) いじめのない学校づくり子ども会議について

【事務局】 今年度の「いじめのない学校づくり子ども会議」のテーマは、「ネットによるいじめをなくすために自分たちができることは何か」である。改めてネットによるいじめがなぜ起こるのか、皆さまからの多面的なご意見を伺いたい。また、この会議で子どもたちにどのようなアドバイスができるのか、ご意見を伺いたい。

【委員】 ネットは、相手が見えないので、伝えたいことを制限なく伝えようとしてしまうのではないか。

【委員】 ネットは、文字情報だけで伝えるので、文字を丁寧に読み込む必要がある。文字情報の捉え間違えで大きな誤解を生むケースが多い。

【委員】 大人でも、メールを書き始めると止まらなくなることがある。メールは対面とは違って、感情の吐き出しやすさがあり、書く内容も一方的になりがちになる。

【事務局】 子どもたちの間で起こるトラブルで特に起きやすいケースとは。

【委員】 子どもの文章には、文字が足りないことが多い。例えば、「なんで来るの？」と交通手段を聞く内容を送信したが、相手からすると仲間外れにされた印象を受けてしまうことがある。説明不足によって相手に正確に情報が伝わらずトラブルになるケースも多い。子どもたちが、SNSの怖さを理解しているか心配になることがある。

【委員】 無断送信などのインスタを使った問題や、オンラインゲームでの仲間外れの例もある。

【委員】 いじめのない学校づくり子ども会議では、起きているトラブルの例について焦点を絞って話し合ったほうがよいのではないか。

【事務局】 学校としてどんな対策が必要か。

【委員】 昨今起きているネットによるいじめ等の事例を活かして、教員も研修を行う必要がある。

【委員】 いじめのない学校づくり子ども会議のように、子どもたちが自ら主体的に問題と向き合う場面を作っていく必要があるのではないか。

【議事】

(2) 「いじめの重大事態」への対処について

【事務局】 2021年6月の朝日新聞に「いじめ重大事態判断をめぐり、第三者委員会を設置」の記事が紹介されていたが、今後、本市の場合も重大事態にかかわる案件が発生することも予想される。いじめの重大事態への対応について、ご意見を伺いたい。

【委員】 法令を今一度よく確認しておく必要がある。

【委員】 亡くなったり、ケガをしたケースだけでなく、本人が心のダメージを受けた場合でも重大事態になることがある。

【事務局】 いじめの重大事態に該当するかどうかの判断についてご意見を伺いたい。

【委員】 重大事態かどうかの判断は、学校の判断だけでなく保護者の意向も十分に汲み取る必要がある。

【委員】 重大事態ではないと判断するのであれば、それ相応の理由が必要となる。しっかりした聞き取りを行い、報告書を残す必要がある。

【事務局】 実際に第三者委員会を開いた場合、どのような対応が必要になるか。

【委員】 第三者委員会では、学校に調査を依頼したり、被害者や加害者にももう一度聞き取りをすることもある。

【委員】 定期的にいじめの調査を行っているのか、なぜ、発見できなかったのかが問われる。

【委員】 全てにおいて、しっかりと記録に残しておくことが重要になってくる。また、そうした事態になる前に、日頃からいじめの調査などを定期的に行い、早期発見、早期解決に向けて対応することが何より一番大切である。